

蓬萊町だより

第 八 号
昭和59年8月30日
発行 蓬萊町会
編集 者 文 化 部

蓬萊町界隈(その五)

昆虫譜 とんぼとりのこと

林 順 信

今日と異って、さして娯楽のなかった戦前の小学生たちの楽しみの一つに、初夏から始まるとんぼとりがあった。せみの場合は、幼虫は、土の中に五、六年から九年程育って、成虫になる時には地上に出て来るので、幾らビル工事や道路工事で、樹木の根が掘つくり返されても、まだまだ森や林は我々の周囲に残っているから、戦後四十年たった現在でも、せみの声は聞かれる。しかし、とんぼとなるとそうはいかない。とんぼの幼虫のやこは、清流に棲んで、小さな魚などを獲る食虫性のものだから、清流の絶えた今日では、最も打撃が大きく、戦前なら、都文館中学の校庭や、根津神社で幾らでもお目にかかれたとんぼは、今や絶滅状態に追い込まれて、東京はおろか、関東平野から姿を消してしまったものもある。

＊いくらでもいたとんぼ

とんぼが最も早く姿を見せたのは五月上旬で、

それも、シオカラトンボであった。ムギワラトンボというのは、シオカラトンボの雌が正式の呼び名で、ただ、雄のシオカラが、黒と塩のふいた様な青の混色であるのに対して、雌は黒と黄色の麦わら色であるためにそう呼ばれていた。このとんぼは、最もありふれた種類で、道路の上だろうと、物干し竿の上だろうといたるところに見付けられ、現在でも夏には姿を出す。

運動すると汗ばむ頃、まだ、蟬の声の聞けない初夏の低木の葉の上に、ひらひらと、まるで蝶の如く羽ばたく愛嬌者は、チョウトンボで、この「チョウトンボ」のことを、町内の子供達は「オハグロ」と呼んだ。正式の学名の「ハグロトンボ」は別において、青緑色に光った細い胴を持った真黒い羽のトンボで、よく池のほとりに飛んでいたが、この近くでは殆んど見られなかった。で、我々が「オハグロ」といつていたのは、正式には「チョウトンボ」のことであった。真黒のからだと羽をしている。このとんぼは、動作は蝶に似てヒラヒラとのんびりだが、掘えようと思つて、もち竿や捕虫網を上を持って行くと、ヒラッとその上、十センチ位のところに舞い上がってしまつて、なかなか捕えにくい。このチョウトンボは、常にあるものを上、十センチから二十センチのところにヒラヒラ廻って飛ぶ習性があるとおもしろい。つい最近、

一匹だけ、この近くで見かけたことがあった。根津神社の三つの池の木陰には、現在でも、数匹の小さなとんぼが、円を描いて休むことなく飛んでいる。腰のところが白い帯となつていて、黒いとんぼで、帯が白いのは雄、黄色いのは雌である。我々、蓬萊町の子供達はオビシメと呼んでいたが、和名ではコシアキトンボである。このとんぼは、雄ばかりがクルクル廻っていて、黄色い雌はどこかに静止しているのかめつたに姿を見せない。

屋間見られるもので最も印象的だったのは、オクルマと我々が呼んでいたウチワトンボ(ヤンマ)で、このとんぼは、ヤンマの仲間ではなく、更に一段階古いサナエトンボ科の仲間であるが、からだはヤンマと同じ位大きい、ただ静止する時には、ヤンマの様にぶら下がる(このことをオブラすると呼ぶ)ことなく、シオカラやアカトンボの様に水平に止まる。ただ、尾っぽに、車輪の様に大きなクルマ状に開いたところがあつて、我々はオクルマと呼んだ。黒と黄色の虎の縞模様でなかなか目覚く、魅力のあるとんぼであつたが、今や殆んど目にすることはできない。

秋になると、青空が紅に染まるほど飛び交うアカトンボは、ナツアカネと言つて、夏の暑いうちは、山地に近いところに住んでいて秋になると気温が低下するので野に下りて来るのである。

る。だから、かなり長生きのトンぼである。アカトンボのことを、蓬萊町の仲間にはアカチと呼んだ。同じアカトンボにも、もう少し大きくて目が青っぽく、からだも美しいオレンジの種類があって、これは、広場の、高さ十メートル位のところを情円形を描いて飛び廻っているもので、これを、西洋アカチと呼んだ。この西洋アカチは静止する時には、生意気にヤンマなみにオブラをする種類であった。正式の学名ではアカカネと呼ぶ。この五種前後のトンぼが、平地でいたるところに通常見られる種類で、このほか、根津神社の池の藻や、不忍池の蓮の葉の上には、ほんとに美しいブルー系やグリーン系やイエロー系の、複雑な色調を持つ糸トンボの数々がいた。この糸トンボのことを、トースミトンボと呼んでいた。時たま、室内に入ってきて、窓硝子でカサカサ音を立てているのを見ることがあった。しかし、なんと言っても子供たちのお宝はヤンマの種類だった。

＊郁文館の校庭はヤンマ銀座

夏の昼間に、池の上や、川に沿って、ヤンマが、一定のスペースを保ちながら、ゆうゆうと飛んでいる姿を見ることがあるが、この昼間のヤンマの飛翔は、自分の縄張り（テリットリー）を誇示してのことで、昼間のテリットリーは、餌のものではなく、主として雌を求めているものである。従って、この様に円を描いたり、川の

上流の橋から下流の橋まで往復して飛翔しているのは、凡て雄のやることで、雌はやらない。一たび雌が出現すると、瞬時のうちに交尾して飛び去ってしまう。交尾している雌雄をオツナガリとか、場所によって、オーカと呼んだ。交尾する時の羽の音からガチャするともガチャとも呼んでいた。

このテリットリー内に他の雄が飛んで来ようものなら、それまでゆうゆうと一定の円を描いていた雄は、猛スピードで、敵を空高く追い上げて、また舞い戻って来る姿を見たことのある人はいるであろう。この空間の雄を掴めるのは難しいが、雌を一通り持っていれば、糸で雌を結んで、手もとで飛ばせば、立ちどころに雄が雌を目がけて交尾しに来るから、すぐ手で掴えられる。

このヤンマの種類は、昼間は、低木や灌木の木の間にオブラして静止する。しかし、その場所選定に当たっては、ものすごく過敏な神経を働かせて選ぶ。一瞬止まったかと思うと、気に入らないとなると、すぐ飛び立って、また場所を選び直す。外敵である野鳥や、くもの巣から自分のからだを守るため、保護色になる場所を選んだり、すぐ飛び立てる様に、オーブンになった枝を好んで休止する。こういうヤンマを見つければ掴え易い様に思うが、なかなか敏捷で難しい。ヤンマを掴えるのには、何と言っても、

夕方、餌である蚊を求めて群飛して来る時が一番である。

夏の長い日中が、やがて夕焼け空に変わるうとする時、ヤンマは、餌を求めて、郁文館中学の校庭の上を通過したり、中には、校庭の中をグルグル廻って、蚊を食べる。この様に、一定の円を描いて飛びくことを、オマワリという。郁文館の校庭には、夏の夕方ともなると百匹や二百匹のヤンマが飛んで来た。まだ、空が明かるいうちには、上空四五十メートルのところを、ヤンマが間遠に飛んで来る。時間が経って夕焼け雲がたなびく頃ともなると、高度は二階の屋根すれすれで、その数はラッシュとなる。

まだ夏休みが始まる前の七月上旬から中旬までにはしか飛んで来ないヤンマは、アオヤンマと言って、元来は沼地にいる種類なのだろうが、このヤンマが飛んで来る。恐らく、綾瀬とか石神井とかの方から飛んで来るのだろう、数は決して多くはないが、このヤンマをヘビヤンマと呼んでいた。色が暗い青緑色で、このヤンマの胴は、柔かくなく、まるで蛇の様な弾力のある感じで、他のトンぼにはない特色がある。ふっくらとした所がなく、ストリートなからだで、手に持つと重い感じであるのが特色である。胴から尾にかけて、一定の間隔でうす黄色の模様が入っているので「モノサシトンボ」と言っているところもある。このヤンマは、八月には殆

んど姿を消してしまふ。

最もボビュラーなのはギンヤンマで、雌をチャンと呼んだ。このチャンの歳をとって渋くなったのを、ボロチャンとかシブチャンとか、オブルとかと呼んで、ギンヤンマと異って、羽が茶色にくすむのである。中には、脇腹に、まるで焼印を押した様な黄褐色の斑点があるものがあった、これをハンコチャンと言って重宝がられた。このチャンを持っていれば、翌日の昼間のギンヤンマ獲りは楽々なのであった。

最も貫録のあるのはオニヤンマで、これは世界最大のトンボである。蓬萊町の子供達はこのヤンマを、オードロと呼んでいた。余り羽ばたかないでも、大きさと、からだのバランスの良さとで、まるで鷲の様に堂々と飛翔する。

(8) このギンとオードロの他に、珍種がたまに飛んできた。ルリボシヤンマと言って、真黒いからだの脇に、ルリ色の丸い斑点が並んで、美しいヤンマである。我々は、これをデンキヤンマと呼んだ。当時の蓬萊町界隅子供達の特徴を巧みに扱えた呼び名には感心させられるが、このヤンマは、夜空に輝く電燈を思わせるものであったが、百匹中一、二匹いるかないかの珍種であった。後で解かったが、このルリボシヤンマは、長野県の小諸市附近の池に群棲すると伝えられるが、私は三、四年前、長野県の駒ヶ根市のさる小さな池で再会できて、胸躍らせたこ

とがあった。

最も珍らしいのはマルタンヤンマと言うもので、これは、日本にしかないヤンマで、宣教師のマルタンが長崎で見付けて命名したヤンマで、以前は関西にしかないと言われた珍種だが、石神井の三宝寺池辺には生息していたといわれている。このマルタンヤンマは、一夏で二匹しか見られないヤンマで、下から見るとかは柿渋色で羽の根本も暗褐色で、まるで、手まで染まるかと思える程の色の凄さで、我々は、コガシと言っていた。こんな珍種も、郁文館の校庭には飛んで来ていたのである。夕方のラッシュ時には、郁文館の校庭はヤンマ銀座の観を写した。

★ヤンマ獲りの秘密兵器「トリコ」

ヤンマを掴まえる好機は、ヤンマが腹ごしらえをする夕方であった。餌を食べるということに気があるため、低く飛ぶし、餌である蚊や小さい虫を喰うために、スピードもさして出ていないからである。

日本全国のどこへ行っても、とんぼ獲りは、長いもち竿を、くねくねとひならしては、とんぼを追ひ駆け廻すのが通常であるが、こんなことをすると、折角ゆっくり飛んでいるヤンマは、急いで逃げて行ってしまう。しかも、もち竿で掴えたヤンマの羽は、もちでべっとりなので、後から揮発油でふいたりしなければならぬ。

蓬萊町の連中はそんな野暮な獲り方はしなかった。

空高く飛んでいるヤンマの、すぐ目の前に、「トリコ」という秘密兵器を投げてやる。すると、ヤンマは、それを蚊だと思って喰いついて来る。すると、「トリコ」の細い糸に、毛ばだったヤンマの足や羽がからまって、地上に落下して来るのである。

「トリコ」を作るのに、用意するものは、細いしつけ糸（この糸ゾベ糸と呼んで、着物のしつけ糸で、絹糸である）一尋（ひろ）と、ガン玉を布切れて包んだもの二個である。包む布切れは、出来れば赤いモスリンがよいとされていた。ヤンマが赤い色を好むと一尋（ひろ）分のゾベ糸の両端に、ガン玉を布切れて包んだのを一個ずつ結ぶ。投げる時には、右効きの人の場合、左手の拇指、人差指と中指とにガン玉の重りを二つ共握り、右手にゾベ糸を持って、夕空高くそれを投げるのである。すると、ヤンマは、重りを蚊だと思って喰いついて来て、ゾベ糸にからまれて、重りの重味で地上に落ちて来て生け獲りとなる。

「トリコ」を持った子供達が、夏の夕暮の郁文館には二十人も三十人も集まる。ヤシマは餌の虫を見易い様に、大体夕日を背にして飛んで来るが、その日の風向きで多少変わることもある。高さは、虫の飛んでいる十メートルから二

十メートルであるが、風の強い時には、蚊が地下一尺位まで下りて飛ぶので、ヤンマも低空飛行で、しかも猛スピードなので、我々も、しゃがんで見ないと、ヤンマの姿は見え難く、スピードに合わせて「トリコ」を投げるのは、可成りの熟練を要する。折角、喰いついても、十分の高さがないので、途中で逃げられることもあった。

蓬萊町の子供たちの間では、守らなければならない、「トリコ」のルールがあった。

一、郁文館校庭ではもち竿は御法度である。

一、ぬけがけは御法度で、ヤンマが校庭の上空にさしかかって来た時には、先づ、「来たよう」と大声で皆に合図してから、「トリコ」を投げないと失格する。だまっで掴えたヤンマは放してやらなければならない。

一、折角ヤンマが郁文館の校庭目がけて飛んできてようとしているのに向かって、駆け出して行つては不可ない。ヤンマは人のただならぬ行動に、ひょいと方向を変えて行ってしまうからである。

この様な「トリコ」を使いこなすのには、相当の修練が必要で、小学四年生位にならないと巧くコントロールされて投げられないから、ヤンマが獲れない。自分ひとりなら、オマワリしているヤンマの数も五つや十匹はいるから、一々に何匹も獲れるが、あの郁文館の校庭に二、

三十人もの子供がいる上に、一つのヤンマ目がけて幾つもの「トリコ」が投げられるのだからヤンマの方も迷つて、喰い付くチャンス逃すこともある。そこを、ベテランともなると、適格な位置に、「トリコ」を投げられるから、収穫は多くなる。下級生のうちは、兄貴分の獲ったヤンマを持つ係りをして、帰りにヤンマをこ褒美に何匹か貰って帰るのである。蓬萊町の名人は、岸田の喜一さん、二十五番地の露天商のべっこう焼きの「いっちゃん」の市川のいちのふたり、千駄木町の漱石の「猫の家」の向かい側の医大への入口の南角にあった勝田運送店の勝田の兄さんなどであった。デンキヤンマは、岸田のきいちゃんが獲ったことがあった。私も「トリコ」の技術には自信があつて、例の珍種のマルタンヤンマを首尾よく掴えて、その年の昆虫採集として学校に提出したことがあつた。

この「トリコ」の技術は、地方に赴いて、大勢の田舎の人達の眼前で実演してみせた時には、皆から不思議な技術の持主として英雄扱いされたことがあつた。

毎年、夏になると、夕空を眺めるのだが、もう再び、あのヤンマの群飛する光景は見られない。「トリコ」の技術は、今でも保持出来ていると思うのだが、ヤンマがいなくては実力を発揮することも出来ない。

町会活動の概要

昭和59年2月から5月まで(4か月間)

総務部

2月上旬 向丘二丁目、地図を各会員あて配布

2月10日 向上地区朝会連合会議

2月14日 文京区役所主催「区民の集い」

議題1. 地下鉄7号線の建設計画について

2. 旧教育大跡地について

3. 文京区公会堂再建について

3月上旬 破損の著しい町会備品購入

1. テント 大・中 各一幕

2. 町会旗 一組

3. 小旗(町会、婦人部、青年部)

4月18日 町会主催リクレーション

町内会員皆様多数(五二名)のご参加を頂き、バスで桜の花の咲きはこる春の一日、楽しい都内観光を行いました。

巡回経路、皇居参観 国会議事堂見学 泉岳寺参拝

5月6日

文京区向丘地区青少年対策委員会

防火部

2月16日 本郷消防署防火協合理事会

各町会に防火婦人支部を設置したい旨の提案

がありましたが、意見調整がつかず、次回に再検討することになりました。

3月13日 文京区役所から町会あて、非常災害時の屋外炊き出し用釜、一個の配付を受けました。

〃消火器の訪問販売にご注意〃

悪質な業者が横行しています。買い求められる場合は、信用のおける業者から購入するようにして下さい。

防犯部

1月21日 駒込防犯協会会議

当町会においても、盗難が続発しております。留守になさるときは、戸締りを厳重に、また、近所の方にも一声かけてお願いし、このような被害を防ぎましょう。

衛生部

5月中旬 文京区役所から殺虫剤フェニトロチオン乳剤が届きましたので、各地域担当役員を通じてお配りいたしました。

交通部

1月24日 駒込交通協会会議

4月6日 4月15日

「春の全国交通安全運動」

運動期間中は、交通部、青年部、婦人部が連

日、街頭に立ち歩行の安全指導と、ドライバーへの安全運転を呼びかけました。

婦人部

4月23日 5月13日

「根津神社つつじ祭り」

甘酒茶屋の奉仕に婦人部が参加いたしました。

5月下旬 日本赤十字共同募金につきまして、皆様のあたたかい御厚情を賜り誠に有難うございました。当町会における募金額は、次のとおりです。

一金 一四四、〇一〇円也

青年部

本年は異常低温のうえ、降雪も多く厳しい日が続きました。青年部では、降雪後の凍結を考慮して、火災などの用水確保のため、消火栓上を重点に要所々々の除雪作業を行いました。

2月26日 青年部主催により「蓬萊町会囲碁将棋大会」を常福寺内集会所で開催、町内の方が多勢参加され盛会でした。

文化部

4月上旬 町会員のお子様で、本年小学校に入学された方は、左記にお名前をのせさせて頂きました。

誠にありがとうございます。当町会から就学

されたお子様方に、心ばかりの祝品をお贈りいたしました。

記

倉田富蔵・須藤真理子・遊佐美里・室屋妃子・益子美紀・池上英洋・恩田順子・難波秀定・山田麻記子・坂本恵美

計報

当町会にお住いの方で、1月下旬から5月までの間にご逝去された方々のご氏名は左記のとおりでございます。謹んで弔意を申し上げ、御冥福をお祈りいたします。

猪野 峻様 斉藤キヨ様 清水さき様
加藤隆伍様

編集部

例年がない気候不順から開花の時期も大幅に遅れ、やっと平年並に戻りましたが、さびしい残暑がまっております。町内の皆様にはご自愛第一にお過し下さい。ご意見などは編集部にどうぞお寄せ願います。

尚、事務上の都合で発行予定が二ヶ月程づれました事をお詫びいたします。

編集委員 小林音吉、竹中一馬、猪熊良晃

高橋一郎、翁 松夫、池田 暉

※次回の発行は11月を予定しております。

昭 和 5 8 年 度 決 算 報 告 書

昭和58年4月1日～昭和59年3月31日

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰越金	46,757	区より	総会費	197,000	会場費及茶菓子代
町会費	1,168,250		会議費	211,490	役員会々場費茶菓子代
補助金	174,000		総務費	158,080	部会及研究等に
寄付金	67,000		渉外費	129,410	関係団体等
雑収入	177,500		備品費	393,000	維持費, 購入費
銀行利息	3,619	テント, 2帳り 町会旗及小旗, 倉庫棚等整備 防災積立金 期末累計 ¥890,260-	事務費	138,340	
防災積立金より支出金	534,307		通信・交通	64,380	
			電気代	71,978	防犯灯維持費含む
			防火部	19,720	防火訓練費他
			防犯部	47,450	防犯訓練費他
			交通部	63,365	交通安全運動費他
			衛生部	12,150	
			文化部	173,870	蓬萊町だより, 成人, 新入学祝
			婦人部	134,900	敬老費他
			青年部	250,000	部費
			慶弔費	46,000	
			消耗品費	60,300	茶箱及ヘルメット
合 計	2,171,433		合 計	2,171,433	

昭和59年8月25日

収支決算上記の通り報告します。 町会長 久貝貫一印、会計 川西正造印、会計 橋本明昭印

上記の決算相違なき事を証明します。 会計監査 原 典順印、会計監査 清水康政印

昭 和 5 9 年 度 予 算 書

昭和59年4月1日～昭和50年3月31日

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰越金	0	前年度より	総会費	130,000	会場費及茶菓子代
町会費	1,160,000	(区より)	会議費	100,000	役員会々場費茶菓子代
未過年度会費	40,000		総務部	50,000	
補助金	174,000		渉外費	120,000	関係団体等
雑収入	100,000		備品費	100,000	維持・購入費
利息	3,000		事務費	100,000	
		銀行利息	通信・交通	60,000	
			電気代	70,000	防犯灯, 維持費含む
			防火部	50,000	部費
			防犯部	50,000	部費
			交通部	50,000	部費
			衛生部	20,000	部費
			文化部	150,000	入学児童, 成人祝他
			婦人部	150,000	敬老, 部費
			青年部	200,000	部費
			慶弔費	30,000	
			消耗品費	0	
			予備金	47,000	
合 計	1,477,000		合 計	1,477,000	